



川原寛堂再行頼青

上言

3259



414  
A 3512

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

辱知生川路寬堂謹テ



無限之閣下ニ白ス夫レ人潤ノ政策ニ於ルヤ一所謂  
萬世不易確乎不拔ノ方畧ナルモノハ繼令不世出ノ英雄  
ト云凡之ヲ立定スルコト不能ルノ程ナルベレ何トナレバ地球ハ游  
星人生ハ活機ニシテ而ノ時勢ノ變遷已マガルモノナレハナリ  
況ンヤ財政ヲ調程スルニ於テラヤ果シテ然ラバ古来有名ナル  
理財家ノ行爲ヤレ財政ハ皆萬世不易ノモノニ非ル乎曰ク  
然リ只皆當世ノ事務ヲ曉リ其時勢ニ應シテ一時ノ姑息ヲ  
ナセレ所ノモノト云凡取テ過言ニ非ルベレ姑息トハ何ゾ一時  
ノ急ヲ濟クヒ暫ク危キヲ免ルノ義ニシテ而ノ其姑息ク  
息ノ時間タルヤ或ハ一年ヲ保ツテ得ル一アリ或ハ十年ノ  
息ヒテ得ルニ至ルベレ世ノ腐儒迂生ガ姑息ノ二字ヲ以テ

為政者ヲ誹ルノ語トナスハ何ゾ惑ヘルノ甚シキ乎愚生昨朝  
閣下ニ并認ルノ榮ヲ辱フレ銀貨相庭ノ非常ニ騰貴セシ  
趣ヲ上聞シ且ツ之ヲ醫スルノ愚策ヲ建言シ我財政上ニ於  
テ去英幣ノ去政策アラセラレントラ上願セシ以未高頻  
リニ京濱ノ間電報ヲ通牒シ熟ラ其市場ノ景況ヲ察スル  
ニ高オ駿ミトシテ昇進シ現今既ニ壹圓五拾五錢以上ニ達リ  
ト此報タルヤ吾人ヲシテ實ニ驚嘆ニ堪ヘザラシムルナリ嗚呼  
今日ノ銀貨相庭ハ昔日ノ洋銀相庭ニ非ズシテ即チ我  
帝國ノ紙幣ト紙幣トノ間ニ起ルノ差ナリ之ニ依テ之ヲ  
觀レバ方今我紙幣ノ價タルヤ金壹圓ノモノハ僅カニ四十五  
錢ニ充ナルノ價ナリト云ベシ是レ蓋シ往年諸藩ノ銀札ハ  
イザ知ズ中央政府ノ紙幣ガ如此下落セシモノ古未未

嘗テ見ザル所ナラスヤ若シ此今日ノ形狀ヲシテ此上市場ヲ恣  
マニナサレメハ倍マス貨物ノ價程トム賤ノ信用トニ影響ヲ  
及ボシ来リ上ハ當路諸賢ノ顧慮ヲ煩ハシ奉リ下ハ人  
民ノ嘆嗟ヲ極メ即チ外ニハ我外債ノ價位ヲ之落シ内ニハ人  
民財産ノ價ヲシテ半バヨリモ減ゼシムルニ至ルベキノ理ニシテ而ソ  
是レ愚生ガ悲嘆ノ餘リ多罪ヲ顧リミズ昨日閣下ニ建  
言セシ所ノ趣意ヲ以テ今一應涕泣哀訴セント欲ル所以ナリ  
伏テ願クハ閣下速ニ非常ノ去英幣ヲ以テ銀貨五拾萬  
圓ヲ此市場ニ擲賣アラセラレントラ愚生狂銭ナリト雖凡  
閣下幸ニ生ラシテ擲賣ノ事務ニ當ラシメ賜ハバ市場ノ妙手  
一二ノ真商ト相謀リ誓テ寸功ヲ奏セント欲スルナリ然リ  
五十萬圓ノ巨額ヲ素ヨリ一日ニ賣却シ得ルニ非ズ五萬

乃至七萬ノ額ヲ日々ニ法下附ヲ希ヒ奉リ朝タニ之ヲ市場ニ  
出シ夕ベニ其代紙幣ヲ上納スベキガ故蓋シ五十萬ノ巨額ヲ  
悉ク賣却セズ凡僅カ五万十萬ニシテ將サニ市場ニ大ナル影響  
ヲ未レ紙幣ノ價位ヲ縮、復ルモ計ルベカラズ然リ而メ方今  
大藏省ノ金庫ニ金貨ハ山ヲナスト金匠造幣局ノ其都合ニ  
依リ万一鑄成ノ銀貨殆ド少ナキ一アルハ香港上海銀  
行等ニ於テ容易ニ法用辨相成ルベシ是等ノ事ハ愚生過  
ナリト金匠法下 命アラバ二三時間ヲ出ズシテ其事成ルベシ  
ト信ズル所ナリ抑モ以上ニ述ル所ノ政畧ハ唯姑息ノ所為ニ  
シテ敢テ之ヲ行フニ足ラズトノ説ナレト云可ラズト金匠前文  
ニ論ズル如ク一時ノ急ヲ濟フハ素ヨリ姑息ニシテ而メ其姑  
息ヲ以テ常ニ紙幣ノ價位ヲ保ツラ得ハ奚クンゾ知ラン姑

息ハ終イニ其性ヲ堅フレ始ラクノ文字ハ教年ノ久ニ涉リ而  
息ノ文字ハ殖財富國ノ安策ヲ得ルニ至ルベキト敢テ論ヲ  
待タス且夫レ其際條約改正ノ成果アルニ際スベクシテ而メ  
其時ニ至リ今日ノ姑息策始メテ大結果ヲ呈スルニ至リ世ノ  
庸儒迂生モ始メテ姑息ノ政策ニ大ナル易アルヲ曉ルベキナ  
リ 閣下寬仁辱クモ愚生ノ迂論ヲ以テ 清覺ヲ煩スラ  
省シ愚生ガ嘆願哀訴ノ情ヲ察シ賜ヒ若シ迂言ヲ採  
用成シ下シ賜ハハ膏ダニ愚生ノ幸福光榮ナルノミナラズ日  
本全國人民ノ大幸ト云フベキニ至ルモ知ル可ラズ恐惶恐惶  
再拜頓首

明治十三年三月二十有四日於東京



